

## 2011 年度第 5 回執行理事会議事録

期 日：2011 年 11 月 12 日（土） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 渡部副会長 久田副会長（14：30 頃出） 藤本常務理事 齋藤副常務理事  
石渡 小嶋 坂口 高木 藤林 星 内藤 向山 平田 山口各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：井龍（宮下） 中井 西

\*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 15 名，委任状 1 名，合計 16 名の出席。

\*前回議事録の承認

議事録の修正について

修正文は渡部副会長から（研修事業について）

### I 審議事項

#### 1. 学術大会の回り持ち（維持・一部変更等）に関する申し合わせ案（星）

本案を 12 月の理事会に提案することとし，一部修正の上，承認。予め支部長連絡会議で検討してもらい，意見を理事会で出してもらおう。重要な点は回り持ち順に割って入るように開催を希望する機関（または支部）があった場合の手続き。

#### 2. 技術者教育委員会の新設，同委員会規則案（小嶋）

J A B E E 委員会および技術者継続教育委員会を廃止して，新たに技術者教育委員会を新設することを 12 月の理事会に提案する。新委員会の委員は現 JABEE 委員会委員長，継続教育委員会委員長，応用地質部会長，JABEE 認定を受けた各大学の担当者，応用地質関係企業勤務の会員などを予定している。

委員会の今後のロードマップ・長期ビジョンは，委員会が立ち上がる前に考えておいた方がよい。たとえば，JABEE はワシントンアコードに基づいているが，工学系によるものなので地質にはなかなか馴染まない点がある。情報系がソウルアコードを作ったように，困難なことではあるが別のアコードを作るといような考え方もあっていい。カナダ，イギリスの地質技術者は JABEE にはよらない別の枠組みで認定している。学術会議で地球科学教育の質保証の問題が始まりつつあるが，技術者教育とはやや異なる面もあると予想される。

#### 3. サイエンスライター応募について（坂口）

5 名の会員の応募があった。学会としては，地質学の普及のためにライターを育てる目的と，学会としての広報記事を増やす目的がある。議論に加わっていただいていた未来館の担当者（会員外）も加え，当面 6 名体制で行う。

主たる目標は広報誌を考えて，各ライターの得意分野が偏っている可能性が高いので，今後は追加メンバーも検討する。

学会として，普及・広報に必要な記事をライターに委託して原稿を書いてもらう，内容のチェックは広報委員会が行う，原稿の著作権は地質学会に帰属する，ことなどを応募者に確認した

うえで具体的に進めてゆく。

#### 4. 選挙立会人2名の選出

2012年度の選挙のための立会人として、  
次の2名の会員を選出した。

立会人 巖谷敏光(GSJ), 山本由弦(JAMSTEC)

#### 5. 12月の理事会議案

- ・ 学術大会の回り持ちについて
- ・ 定款の修正について
- ・ 技術者教育委員会の設立について
- ・ 2012年度の事業計画（事業部会，専門部会，支部等に事業案の提出を求める）
- ・ 2012年大阪大会・2013年仙台大会の開催基本方針，行事内容の検討・各賞選考に関する問題点について(申し送り事項等について)。

#### 6. 定款について

定款第33条の2項の理事の選任に関し，「・・・総会はこれを決議する」を「総会に報告する」と変更することを理事会に提案する。

総会では，選挙結果の承認(理事の選任)を行い，総会后，第1回目の理事会を開き代表理事以下を選任する。代議員には理事会終了後，速やかに報告を行う。

変更条文：

「理事会は，理事会規則により会長1名，副会長2名，常務理事1名，副常務理事1名および執行理事を選任し，総会に報告する。」

## II 報告事項

### (1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. アイソトープ協会より「第49回アイソトープ研究発表会」の共催依頼（2012/7開催予定）  
例年通り共催を承諾し，運営委員として山口耕生理事を推薦することとした。
2. 第2回ジオパーク洞爺湖有珠山大会終了挨拶

<外部の賞>

1. 第53回藤原賞の推薦（メ切1/31，学会メ切1/10）→HP, geo-flash, News誌に掲載

<その他>

1. 平成24年度東大海洋研究所・国際沿岸海洋研究センター共同利用の募集（メ切11/30）
2. 独）原子力安全基盤機構理事長の交代 新理事長：中込義弘良廣

<会員>

1. 今月の入会者（1名）

正会員（3名） 上澤真平 宮坂瑞穂 荻谷愛彦

2. 今月の退会者 (0名)
3. 今月の逝去者 (1名)  
正会員：宮地直道 (10/30)
4. 10月末日会員数  
賛助：26 名誉：72 正会員：4046 (正会員：3853, 院割正会員：181, 学部割正会員：12)  
合計 4144 (昨年比 -98 )

<会計>

1. 水戸大会の2学会の収支概算

大きな赤字／黒字にならない見込み

2. 緊急調査および災害調査の調査団を組織した場合の経費支出に関すること.

紀伊半島の斜面災害調査団の経費の支出要請が近々ある予定, それを見たうえで, 今後のルール作りも合わせて検討する

(2) 広報部会：広報委員会 (坂口)

- ・第3回地球惑星フォトコンテストの募集開始
- ・支部, 専門部会の SNS が 11/19-20 に立ち上がる見込み

(3) 学術研究部会：行事委員会 (星)

1) 大阪大会

- ・見学旅行案内書の編集体制が決定.
- ・シンポジウムの検討を近畿支部に依頼. 内陸地震と地質構造, およびアウトリーチ関係のテーマが検討されつつある. アウトリーチ関係の検討には執行理事会 (社会貢献部会) が協力することを確認.
- ・大会スローガンは, シンポ等の内容を見ながら実行委員会に検討を依頼する.
- ・トピックセッション募集記事をニュース誌1月号, 年会予告記事を5月号, プログラム記事を8月号にそれぞれ掲載予定. 演題登録 (講演要旨提出) 締切は7月初旬を予定.
- ・引き続き, アカデミックブレインズ (大阪) に業務の一部を委託することを確認.

2) 2013年仙台大会

- ・見学旅行が東北支部総会 (12月, 福島市) で検討される予定. 行事委員会から星が出席予定.

(4) 学術研究部会：国際交流委員会 (石渡)

- ・IODP から USA が撤退する意向. AGU 時に検討を行う予定.
- ・国際賞は会員でも可, 学会表彰は賛助会員でも可である (確認)

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会 (小嶋編集委員長)

1) 今月の編集状況 (11月10日現在).

- ・投稿論文総数 74 編 [総説 15 (和文 14, 英文 1), 論説 38 (和文 36, 英文 2), ノート 13 (和文 13), 報告 8 (和文 8)] 口絵 8 (和文 7, 英文 1)

\*論説には 5/31 までに投稿された短報を含む.

- ・査読中 58 編 受理済み 17 編 (うち通常号 5 特集号 12)

2) 学会員以外の論文の出版について

- ・10月号に非会員が筆頭の論文が掲載された. 理由はいくつかあげられるが, 基本的には,

受付の段階及びその後のチェックが適切に行われなかったことである。チェック体制を再度確認し、再発防止に努めることとした。編集委員長名で理事会に報告と謝罪をする。また、編集後記においても、一般的な問題として注意喚起を促すこととした。

(6) **編集出版部会：アイランドアーク編集委員会**（井龍編集委員長）

- ・資料による編集状況の報告

(7) **企画出版委員会**（山口）

- ・城ヶ島たんけんマップの残部僅少のため、年度内に増刷予定。  
初版は3000部印刷しているが、増刷も3000部を予定。
- ・ポスター「超歴史年表」の再投稿について

(8) **社会貢献部会**（藤林）

- 1) 地質の日の行事（藤林） ・第3回フォトコンテスト（2012年）の入賞写真は千葉県立中央博物館で展示していただけることとなった。  
詳細は担当者間で今後つめていく予定。来年5月の執行理事会の開催日程についても要検討。フォトコンの表彰式は2012年5月19日（土）の総会において行う（総会開始の直前を予定）。
  - ・2012年度の地質の日の事業については応用地質学会との共催事業を企画中
  - ・2011年度第5回「地質の日」事業推進委員会の報告
  - ・2011年度「地質の日」の全国の事業のまとめ
  - ・来年度の事業の推進を支部に連絡する。
  - ・地質の日のポスターの印刷費について、資金拠出の依頼がある（参加学会・機関全体で13万円強/年負担する）。

(9) **ジオパーク支援委員会**（高木）

特になし

(10) **オリンピック支援委員会**

- ・委員会活動報告
- ・JSTでは国内の各オリンピックの事務を可能な限り統合する方向である。  
科学の甲子園(化学, 物理, 生物, 地学, 情報, 数学):47都道府県代表により2012/3/24-25に甲子園で全国大会を行う。7月~2012年2月の間、都道府県予選会を行い出場チームを決定。

(11) **震災復興事業プラン検討WG**（高木・向山・藤本・斎藤）

- ・歌津魚竜館大型標本レスキュー事業（永広会員）については文化庁の予算がつき、地質学会の経費負担はないことになった。このため、申請者より、事業内容の変更の申し出があった。検討の結果、前回の応募事業は白紙に戻すこと、既に本事業の応募は締切られているが、新規の事業として応募することを特例として認めることとした。  
申請者からは改めて、レスキューされた資料標本を安全に保管・継承し、展示等に活用するために、標本の洗浄・消毒および修復などの作業を行う事業としての応募が11月9日にあり、WGではその応募を採択することとなった。
- ・成果報告を連合の時に地質学会ブースでできればよい。

(12) **連携事業委員会**（渡部）

- ・契約内容の変更(委員会開催時期の変更)を合意。

- ・将来の報告書の基準になるような報告になればよいとの話があった.

**(13) 地質災害委員会 (斎藤)**

- ・台風 12 号による地盤災害合同現地調査団報告会の開催

主催：地盤工学会関西支部，応用地質学会，関西地質調査業協会 後援：近畿建設協会

- ・11月24日(木) 13:00-17:30 エル大阪南ホール

- ・検討課題：緊急調査および災害調査の調査団を組織した場合の経費支出.

以上